

【米国】

2020 年上半期の国際観光移動の動向について— 国連世界観光機関による World Tourism Barometer より—

高木 大介 ワシントン国際問題研究所研究員

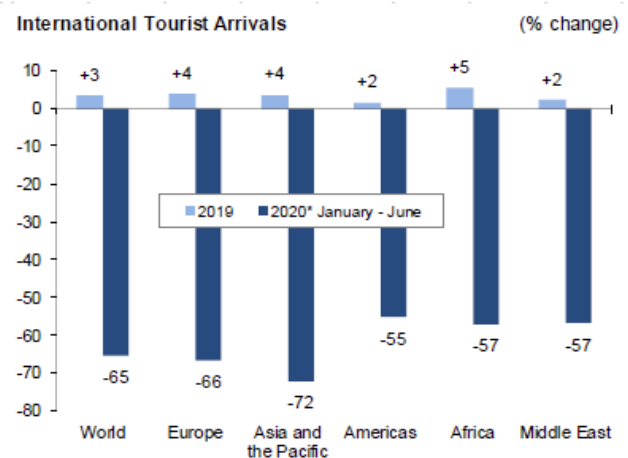
1. はじめに

2020 年も 4 分の 3 が過ぎようとしているが、今年の上半期（1 月～6 月）は、世界のあらゆる産業界にとって史上最悪の 6 か月間だったと言っても過言ではない。もちろん、観光業界も例外ではなく、特に国際観光市場は最も打撃を受けた市場の一つに数えられるだろう。本稿では、国連世界観光機関（UNWTO）が作成した World Tourism Barometer を手掛かりに、その要点を訳出する形で今年上半期の国際観光移動の動向と今後の見通しについて俯瞰することとしたい。

2. 世界全体の動向

世界全体における 2020 年上半期の国際観光訪問者（宿泊訪問者に限る）は、前年同期比で 65% の減少となり、6 月のみに至っては 93% の減少を記録した。第 1 四半期こそ 28% の減少だったものの、第 2 四半期は過去に前例のない 95% もの減少となった。この結果は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を抑えるための措置の中で、主に 3 月の後半から 4 月～5 月にかけて世界中のほぼ全ての観光目的地における広範な旅行制限とロックダウンを反映している。その後、5 月後半から 6 月にかけて、再開する観光目的地の数が徐々に増えたにもかかわらず、北半球の夏季シーズンを前に、5 月と比較して 6 月は期待される改善はほとんど見られなかった。一方で、オーストリア、オランダ、ドイツ、クロアチアなど一部のヨーロッパの大都市では、5 月と比較して 6 月の訪問者数がわずかに改善し、さらに EU 全域で国境の再開が徐々に広がり、域内旅行を助ける形となった。

上半期の国際旅行需要の大幅な減少は、4 億 4,000 万人の国際訪問客と約 4,600 億ドルの国際観光収入の喪失につなが



Source: World Tourism Organization (UNWTO) © * Provisional data

図 1 地域別の国際観光訪問客数の前年同期比割合

ったとされる。これは、世界経済金融危機の中で 2009 年に記録した損失の 5 倍以上を表している。

地域別では（図 1 参照）、COVID-19 の影響を受けた最初の地域であるアジア太平洋は、上半期の国際観光訪問客が前年同月比 72% 減少した。2 番目に大きな影響を被ったのはヨーロッパであり、66% 減少した。次いで、南北アメリカが 55% 減、アフリカ、中東がともに 57% 減となっている。小地域レベルでは、北東アジアが 83% 減、南地中海ヨーロッパが 72% 減と極めて大きな影響を被っており、その他世界のほとんどの小地域で上半期に 50% 以上の減少が見られた。国際需要の縮小は、大規模市場における国際観光支出の 2 桁減少にも反映されている。米国や中国などの主要なアウトバウンド市場は引き続き停滞しているが、フランスやドイツなどの一部の市場は 6 月にいくらかの改善を示している。国際観光の回復は依然として停滞しているが、7 月の航空供給量が 2019 年レベルの約 90% にまで回復した中国などの大規模市場では、

国内観光の需要が高まっている。ロシアでも国内旅行の増加に航空供給量が支えられる形となっている。UNWTO のレポートによると 9 月 1 日現在、合計 115 か所の観光目的地（世界の全観光目的地の 53%）で COVID-19 関連の国際観光旅行制限が緩和された。これは、今年の 7 月 19 日時点と比較して 28 か所の増加となる。

IATA によれば、1 月から 7 月にかけて世界の航空旅客需要が 67%減少し、4 月に底打ちとなってから徐々に回復しているとしている。7 月の需要は前年同月比で 92%の減少となっているが、これは、ほとんどの国際線が引き続き運休しているかまたは便数を減らしていることが影響しており、6 月に記録した 97%の減少をわずかに下回るに留まっている。さらにいくつかの国での COVID-19 の感染者の増加が旅行制限の再導入につながった。シェンゲン圏での市場の再開は、ヨーロッパの国際需要を押し上げるのに役立ったが、他の国際市場は 6 月と比較してほとんど変化がなかった。世界の航空需要のわずかな回復は、主に国内市場、特にロシアと中国が牽引している。

ICAO によれば、1 月から 7 月にかけて世界の国際航空供給が有効座席キロ (ASK) ベースで前年比 59%減少したとしている。7 月の国際供給量は前年同月比 75%減となり、6 月に記録した 88%の減少からは改善した。ただし、輸送量の減少が供給量の減少よりも大きかったため、ロードファクターは 46%と 2019 年レベルをはるかに下回った。

STR（全世界の宿泊施設から直接提供されるデータを通し、ベンチマーキングや市場動向分析を取り扱う専門企業）によると、ホテル業界は 7 月に世界の全地域で低水準の実績を記録し、有効宿泊室当たり収益 (RevPAR)、日当たり平均料金 (ADR) 及び稼働率という 3 つの指標で 2 桁の減少を続けた。7 月の稼働率は、アフリカで 17%、中南米で 19%、ヨーロッパで 27%、中東で 35%、アジア太平洋で 46%、米国で 47%と、過去最低水準に達した。

3. 各地域の動向

ヨーロッパ

世界で最も訪問客の多い観光目的地であるヨーロッパへの国際観光訪問客数は、上半期に前年同期比 66%減少し、第 2 四半期に限ると 97%の減少となった。3 月の後半から 4 月～5 月にかけて、ほぼ全ての観光目的地における広範囲にわたる旅行制限と封鎖が、この結果に大きく影響した。6 月の前年同月比 90%減という結果は、5 月の 96%減と比較してごくわずかな改善を示しただけであり、欧州連合内の緩慢かつ

不規則な国境の再開を反映している。多くのヨーロッパ諸国で国内観光が再開され、国内市場が大きい国で全体的な観光需要が高まりつつある一方で、国境を越えた旅行に対しては依然として慎重な姿勢が垣間見える。

ヨーロッパでは、2019 年の同時期と比較して、6 月までの国際訪問客が 2 億 1,300 万人の減少となった。小地域ごとでは、上半期の 6 か月間での国際訪問客数は、南ヨーロッパと地中海ヨーロッパで推定 72%減少し、北ヨーロッパで 64%減少した。6 月のわずかな改善により、西ヨーロッパで 63%減、中央及び東ヨーロッパで 62%減と減少ペースがやや鈍化した。

6 月に EU 内の観光目的地が徐々に再開したにもかかわらず、7 月には感染増の再発の中で、いくつかの国によって旅行制限または自主隔離が再度課されることとなった。UNWTO のレポートによると、9 月 1 日時点で 26 カ国のシェンゲン加盟国のうち 25 カ国を含むヨーロッパの 44 か所の観光目的地が旅行制限を緩和している。ヨーロッパは、これまでに規制を緩和している目的地の数が最も多い地域となっている。第三国から EU への非基幹的な旅行は 3 月 16 日に一時的に制限され、その後も延長されている。6 月 30 日に欧州理事会は、第三国から EU への非基幹的な旅行に関する一時的な制限を段階的に解除するための勧告を採択した。9 月 4 日、欧州委員会は理事会勧告の提案を採択し、加盟国が講じたコロナウイルスの流行による自由な移動を制限するあらゆる措置が、EU レベルで調整され、明確に伝達されるようにした。

IATA によると、ヨーロッパの国際旅客需要は、1 月から 7 月にかけて有償旅客キロ (RPK) ベースで 68%減少した。7 月の需要は前年同月比 87%減と 6 月の 97%減から若干改善した。これは、シェンゲン圏内での旅行制限の緩和とヨーロッパ内の交通量の増加を反映している。輸送供給量は 79%減少し、ロードファクターは 55%に低下した。

STR によると、ヨーロッパでは徐々に宿泊施設の再開が見られたが、実績は低調だった。ヨーロッパでは、7 月の RevPAR が 66%減少した。稼働率は 66%低下して 27%となり、ADR は 21%低下して 96 ユーロとなった。稼働率と RevPAR レベルは 6 月から上昇したが、7 月の記録としては過去最低を記録した。

アジア太平洋

アジア太平洋地域では、上半期の国際観光訪問客が 72%減少し、昨年同時期と比較して 1 億 7,100 万人の減少となった。この地域は COVID-19 の影響を受けた世界で最初の地域

であり、国際需要の大幅な落ち込みは2月にすでに見られた。第1四半期に52%と大幅に減少した後、第2四半期には99%減少した。北東アジアは上半期に83%の減少と世界の小地域間で最大の減少を記録した。加えて、東南アジアは64%の減少、オセアニアと南アジアはそれぞれ58%と55%の減少を記録した。9月1日現在、アジア太平洋には国境を閉鎖する観光目的地が28ヶ所（同地域内目的地の61%）ある。

アウトバウンドにおける世界のトップマーケットであり、アジアの多くの国にとっても国際訪問客の多くを占める中国からの海外旅行も依然として止まったままである。対照的に、中国の国内旅行は盛り上がりを取り戻しつつあり、中国の国内の航空供給量は2019年7月のレベルの90%に達している。

またいくつかの国の間で、疫学的状況を考慮してトラベルバブルや旅行回廊が設定または計画され始めている。9月1日、シンガポールはニュージーランドとブルネイとの旅行回廊を開設し、自主隔離のない旅行を許可した。香港は11か所の観光目的地と旅行回廊について話し合っている。日本は9月1日に外国人居住者への再入国制限を緩和した。

IATAによると、アジア太平洋は7月に国際旅客輸送の97%の減少を記録した。6月の97%の減少とほぼ同じで、他の地域と比べて最も大きな減少となる。供給量は92%減少し、ロードファクターは35%となった。対照的に、中国の国内輸送は着実に回復しており、中国はロードファクターが過去最低から回復した数少ない国内市場の1つとなっている。

STRによれば、同地域のホテルは7月の稼働率が37%減少して46%となり、ADRは31%減少、RevPARも56%減少した。実績としては前月から引き続き改善しつつあるものの、7月も全体的に低水準だった。

南北アメリカ

アメリカ大陸では、COVID-19と旅行制限の影響で、第2四半期におよそ93%もの減少があったため、今年最初の6か月間に国際観光訪問客が55%減少した。小地域別に見ると、カリブ海で58%減、南アメリカで52%減、中央アメリカで56%減、そして北アメリカは55%の減少だった。アメリカ大陸全体で、1月から6月の期間に前年同期比で5,900万人の国外からの到着客を失った。

米国は、カナダ及びメキシコとの国境の非基幹的な旅行向けの閉鎖を9月21日まで延長した。8月6日、国務省は、3月19日に導入した全世界規模のレベル4の健康に関する勧告を解除した。この勧告は、COVID-19が地球規模に及ぶことから全ての海外旅行を避けるように米国市民に勧告してい

た。国務省は、以前のような国固有のレベルの旅行アドバイスに戻しており、個々の国の条件に応じて1~4となっている。これにより、南北アメリカ全体の多くの観光目的地への主要なアウトバウンド市場である米国からの需要が再開される可能性がある。

IATAによると、北米の国際旅客需要は7月に95%減少し、6月の97%減少からわずかに増加した。供給量は86%減少し、ロードファクターは35%に低下した。これは地域で2番目に低い値となる。ラテンアメリカの国際輸送は、昨年と同じ月と比較して6月の97%減に対して、7月もほぼ同様の95%の減少を記録した。ラテンアメリカでは、供給量は93%減少し、ロードファクターは58%に達した。これは同地域の中では最高の値となっている。

STRは、全体的には低水準であるにもかかわらず、米国のホテル業界は7月の実績が前月よりもわずかに優れていたことを示している。とはいえ稼働率は36%下落して47%まで低下し、ADRは25%低下し、RevPARは52%低下した。稼働率のレベルは米国の6月の中では過去最低だったが、3つの主要な指標全てで6月のレベルからは上昇した。中南米のホテル業界は、7月に前年比で若干の改善を見せたが、全体としては低水準となった。稼働率は69%下落して19%となり、ADRは34%、RevPARは79%低下した。稼働率とRevPARのレベルは7月としては過去最低だった。

アフリカ及び中東

アフリカへの国際観光訪問客は上半期に57%減少し、第2四半期は99%減少すると推定される。北アフリカは62%減と最大の影響を受けたが、サブサハラアフリカへの国際訪問客はおよそ54%減少した。アフリカでは、6月までに推定1,800万人の国際観光訪問客が失われた。そのような中、チュニジアは7月にわずかな改善を記録した。

中東では、上半期に57%の減少が見られ、前年同期と比較して1,900万人の国際観光訪問客が失われた。サウジアラビアやエジプトなどの主要な目的地が観光を再開している。エジプトは、サウジアラビアの国内観光を刺激するキャンペーン「サウジサマー」が開始されたものの3か月の間一時停止となり、その後7月1日に国際線が再開されている。

UNWTOのレポートによると、9月1日時点でアフリカの26か所の観光目的地と中東の5か所の観光目的地が規制を緩和している。アフリカの27か所の観光目的地（アフリカの全目的地の51%）と中東の8か所の目的地（中東の全目的地の62%）の国境は閉鎖されたままとなっている。

IATAは、アフリカの国際輸送が7月に95%減少し、6月

の98%の縮小からやや改善したとした。供給量は85%縮小し、ロードファクターは25%に低下した。これは全地域の中で最も低い値となる。中東の航空会社は、6月の需要が96%減少したのに続き、7月は93%の輸送の減少を記録した。供給量は86%減少し、ロードファクターは38%に低下した。

STRによると、中東のホテルの稼働率は7月に42%から35%に減少し、ADRは10%減少し、RevPARは47%減少した。アフリカのホテルの稼働率は73%から17%に減少し、ADRは11%減少し、RevPARは76%減少した。アフリカのホテル業界は、2020年3月にRevPARで76%の減少に見舞われた。稼働率は52%減少して31%になり、ADRは6%減少した。毎月の改善にもかかわらず、中東とアフリカの両方で、稼働率とRevPARレベルが7月の値としては過去最低だった。

4. 2020年以降の将来予測シナリオ

今年5月にUNWTOが発表した2020年の国際観光訪問客数の減少を示す3つのシナリオに基づくと、現在のトレンドは、年間の減少を-70%とするシナリオ2に近い国際到着数の減少を示している(図2参照)。9月1日現在、国境は世界の観光目的地の43%で完全に閉鎖されている。さらに、多くの観光目的地では、COVID-19の集団発生の再発後に旅行制限が再導入された。現在のトレンドが続くとすると、-58%の年間減少を想定するシナリオ1は起こりそうになると思われる。

パンデミックの進展と将来的なワクチン開発の可能性次第ではあるものの、見通しは依然として非常に不透明だ。悪化する経済環境が雇用と可処分所得にマイナスの影響を与えている間、消費者の信頼は記録的な低さにある。旅行制限は多くの目的地で依然として実施されており、ウイルスの封じ込めは遅い。世界保健機関によると、世界中で3,000万人を超

えるCOVID-19感染者が報告されている。

2021年~2024年の長期シナリオ(図3参照)は、パンデミックの沈静化やワクチンまたは有効な治療の利用可能性を考慮して、旅行制限の段階的かつ直線的な解除と2021年半ばまでに旅行者の信頼が大幅に回復するという仮定に基づいて、来年の傾向の変化を示している。それにもかかわらず、国際的な観光客の到着が2019年レベルに戻るまでには2年から4年かかる。

観光の安全な再開を支援する観点から、安全と衛生のプロトコル、対象を絞ったマーケティングとプロモーションのキャンペーン、観光の回復計画、国内観光の促進、旅行制限のとりやめ、旅行保険の提供または旅行回廊またはバブルの作成など、さまざまな手段を導入する観光目的地が増えている。UNWTOは、旅行制限が解除され、責任ある安全で調整されたシームレスな方法で観光を再開する必要性を要求している。セクターへの信頼の回復が依然として重要である。

5. おわりに

以上のとおり、今年上半期の国際観光市場は惨憺たる状況であり、ここから2019年レベルにまで回復するには楽観的に見ても2年はかかると予測されている。その間、日本においては東京オリンピック・パラリンピックの開催も予定されている。主要先進国においてようやく旅行制限や外国人の入国制限の緩和、そしてそれに伴う国際航空路線の再開・再増便が見られるようになってきたが、非基幹的な移動は引き続き制限され、また入国後に一定期間の自主隔離措置を課す国がほとんどなのが実情である。世界経済の活性化には国際移動が不可欠であると考えており、国際移動が平常化するためには各国が真の意味で足並みを揃えた協同行動をとることが肝要である。1日も早い国際観光の回復がなされることを願ってやまない。

International tourist arrivals in 2020: YTD results and scenarios (y-o-y monthly change, %)

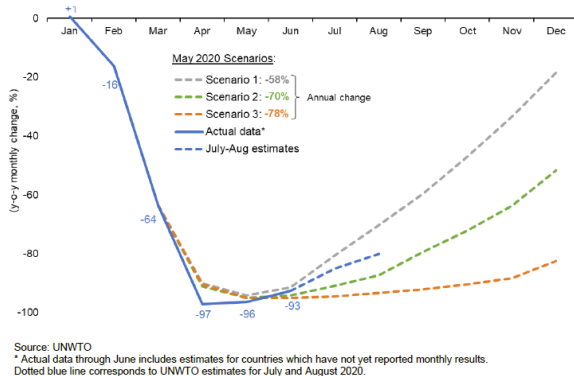


図2 2020年の国際観光訪問客数の実績と今後のシナリオ

International tourist arrivals: Future scenarios (millions)

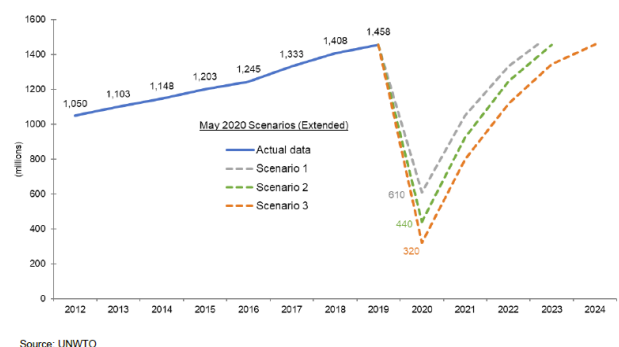


図3 国際観光訪問客数の今後のシナリオ

参考文献

1) UNWTO World Tourism Barometer

<https://www.unwto.org/news/international-tourist-numbers-down-65-in-first-half-of-2020-unwto-reports>